

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

| | | |
|---------------|------------------|----------|
| 団 体 名 | 公益財団法人山口市文化振興財団 | |
| 施 設 名 | 山口情報芸術センター[YCAM] | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 普及啓発事業 | |
| 内 定 額 (総 額) | 839 | (千円) |
| | 公 演 事 業 | 0 (千円) |
| | 人 材 養 成 事 業 | 0 (千円) |
| | 普 及 啓 発 事 業 | 839 (千円) |

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数(人) | |
|----|--------------------|-------------------------|---------------------------------|-------------|-----|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | Audio Base Camp #2 | 令和5年9月22日 (金)～24日(日) | レクチャーパフォーマンス+DJイベント。 監修者：大城真 | 目標値 | 500 |
| | | スタジオA | | 実績値 | 462 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 |
|--|
| ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。 |
| 本事業は、下記に示す山口情報芸術センター〔YCAM〕のミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、実演芸術公演鑑賞機会の限られる地方において、当館の誇る優れた音響設備を活かし、登壇者が選りすぐりの録音メディアを、トークとともに聞かせる、レクチャーパフォーマンスやDJイベントを実施し、多彩で質の高い実演芸術に触れる機会を提供することを計画通り行いました。 |
| ミッション 「1. 文化及び芸術の創造並びに振興のための事業を行うこと」 「4. 活動の成果を市民に質の高い文化芸術経験と教育的な価値として届けること」 |
| ビジョン 「1. 豊かな劇場体験としての鑑賞機会の拡大します」 「2. 多様な関係者との双方向の交流を促進します」 「3. 連携、協業を具体的に進め、新しい価値の創造に取り組みます」 |
| 助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 |
| 文化的意義 地域における文化芸術の創造・発信の場である劇場・音楽堂として、実演芸術活動に触れる機会の少ない地域住民に高品質な音響をより気軽に楽しみ、音響表現の可能性に触れるイベントとすることで地域の文化活動の活性化を図るとともに、交流人口の拡大を図ることで、活力ある地域社会の構築と発展に寄与する普及啓発事業の取り組みとなりました。 |
| 社会的・経済的意義 優れた音楽鑑賞機会の少ない地方において、複数の出演者の創造的な音楽鑑賞機会を届けるとともに、高校生以下の入場料を無料、また、障害者及びその介護同行者1名を特別割引の料金とすることで、地域の文化の担い手となる若者や、障害のある人やご家族にとっても、公演を鑑賞しやすい料金設定としました。また、当館はエントランスから会場（スタジオA）まで、段差・高低差のない床面となっており、障害のある人にとっても利用しやすい環境で事業を実施しました。 |
| [入場料] ○一回券：前売（当日）一般1,300円（1,500円）／賛助会員・特別割引・25歳以下800円（1,500円）／高校生以下無料 ○DJ一回券：前売（当日）一般2,000円（2,500円）／賛助会員・特別割引・25歳以下1500円（2,500円）／高校生以下無料 ○フリーパス：前売のみ 一般4,800円／賛助会員・特別割引・25歳以下4,000円／高校生以下無料 |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【目標1】 市民に質の高い文化芸術経験を届ける

【目標2】 館の特色を活かした実演芸術の振興

【指標】 来場者アンケートを実施し、「内容に満足している」と回答した参加者の割合 70%以上。

【指標設定理由】 令和4年度の同事業における調査の実績値は68%であり、2%の上昇を目指した。

【実績】 63.5%

【分析等】 目標値はアンケートで「大変良かった」と回答した者の割合 70%以上としましたが、結果は63.5%で目標には約7%及びませんでした。しかしながら、目標項目とした「大変良かった」に「良かった」を加えた割合は、令和4年度の同事業（今回と同様に週末の三日間の開催）77.8%に対し、今回は84.3%であり、観客数が前回の327人から今回462人（前年比141%）と伸びる中、より多くの観客から概ね好意的な反響を得ているといえます。また、年齢層も前回10代20代の11.2%が21.9%に伸び、この事業への観覧のために初来館した者も前回の20%から27%と伸びており、固定的なファンのみならず、幅広い層へ、レクチャー・パフォーマンスを通じた多彩で質の高い、豊かな音楽体験を届けることができました。

【目標3】 交流人口の増加

【指標】 来場者アンケートを実施し、市外からの来場者数50%以上、県外からの来場者数は全体の30%以上。

【指標設定理由】 令和4年度の同事業における調査の実績値は、市外からの来場者数48%、県外からの来場者数は全体の29%であり、同等またはそれ以上の値を目指した。

【実績】 市外からの来場者数49%、県外からの来場者数は全体の29%。

【分析等】 達成状況の分析他：市外、県外ともに、目標値にはわずかに1%及ばず、前回とほぼ同様ではあるものの、それを上回る割合とはなりません。しかしながら、前述のように、観客数は前回の327人から今回462人へ増加しており、市外・県外の人数も伸びました。市外は、隣接する市だけではなく、県内では下関市、山陽小野田市や、県外は東京都、静岡県、京都府、広島県、愛媛県、福岡県など広範囲な地域からの来場者があり、館の独自性を発揮した創造的な事業実施により交流人口の増加を図り、地域の課題に取り組むと共に、劇場の継続的運営に寄与する事業となりました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間

【計画（要望書提出時）】 令和5年9月29日（金）～10月1日（日）で調整中。

【実績】 令和5年9月22日（金）～24日（日）

事業期間はほぼ当初の計画どおり、9月下旬の金曜日～日曜日の三日間で実施しました。

当館において毎年行っているライブコンサート用の高性能なPA機材を用いて映画を鑑賞する「YCAM 爆音映画祭2023」開催が2023年9月15日（金）～18日（月・祝）となった為、その次の週末に本事業を行うことで、会場設営の連動性を高め、設営費用を節減できることに加え、来場者への情報発信を効果的に連動でき、結果として業務の効率化を図る目的を達成することもできました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【計画（要望書提出時）】

事業費予算額：2,268,000円（助成対象経費2,062,000円、消費税等仕入控除税額206,000円）

目標入場者数：500人

【実績】

事業費決算額：2,111,974円（助成対象経費1,919,977円、消費税等仕入控除税額191,997円）

実績入場者数：462人

事業費

事業も計画どおりの実施となり、要望書の段階からほぼ予定通りの事業費となった。

入場者数

要望書提出時の入場者目標値500人に対し、実績462人で、92%の達成度となりました。しかしながら、前回（令和4年度実施）の入場者数327人からは141%の伸びを示す増加となっており、また、市内・県外ともに入場者数は伸びています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として、施設設備の利点を活かし、当館の技術・人材等の資源を投入して、市民が創造的な文化に触れる機会を提供し、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業となりました。

事業概要

【日 程】 令和5年9月22日（金）～24日（日）

【会 場】 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA（山口県 山口市）

【監 修】 大城真

【出演者】 宇都宮泰、村上巨樹、虹釜太郎＋金子智太郎、柳沢英輔、保利透＋泊（山田参助＋武村篤彦）

【DJ】 アキラメン、DJ pin、なべこ、李ペリー、イマール、パク・ダハム

【内容】 公演ごとに「フィールドレコーディング」や「アンビエント音楽」などのテーマを設定し、選曲家＝登壇者が音源をピックアップ。登壇者自身による、レクチャーパフォーマンスとして実演しました。録音物を一つの楽器や演奏のための素材としてとらえ、その中から選りすぐりの音源をターンテーブルやクロスフェーダーを搭載したDJミキサーを操作することで、サウンドをミックスし、創造的な新しい音楽を創り出し、高品質な音響環境で、その場で鑑賞者に届けました。

事業の成果・効果等

サブスクリプション型の音楽配信サービスの普及により、音楽を聴取する体験が情報の消費のように変化しつつあり、「場」や「空間」の質が抜け落ちるようになっていきます。またコロナ禍に伴う、ライブコンサートの減少／オンラインイベントの増加もこの傾向に拍車をかけています。本イベントでは、選曲者であるゲスト登壇者による楽曲紹介や文脈の解説をした上で、アナログレコードからデジタル音源までの録音物を再生機によって再生することで、音質および選曲のテーマ性を重視したレクチャーパフォーマンス＋DJイベントを実施しました。前述した近年の音楽消費環境の傾向を踏まえたうえで、コロナ前までYCAMの音楽イベントに頻繁に参加していた固定的なファンのみならず、新しい音楽の聴きかたに貪欲な世代に向け、音響設備の整った劇場空間での豊かな音楽体験を提供し、かつ音楽堂の新しいあり方を提案しました。

本イベントでは音楽文化や音響技術に造詣の深い登壇者らが、解説を交えつつ様々な音源を一つの文脈に沿って紹介していくという形式に加えて、登壇者が幕間にDJプレイをしました。クラブの無い山口市において、高品質な音響を楽しみたいというニーズを汲みつつ、音響表現の可能性に触れ、既存の音響環境では聞き逃してしまう音の細部に触れ、様々な音響の楽しみ方や視点を増やしていく、学習効果の高いイベントです。その可能性や価値を来場者と共有する貴重な機会となりました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

録音技術に精通した出演者の発表を通じて、音響・音楽表現の可能性を改めて提示することができました。この意義については最終日に開催した座談会でも出演者たちによって語られ、またアンケートでも「ホールのシステムの特殊さを堪能しました」などの感想がありました。また入場者の 1/3 程度がフリーパスで入場しており、来場者の平均滞在時間が一般的な公演に比べると長時間に及ぶ傾向があります。そのため、会場の前室にあたるホワイエで、無料の DJ プログラムや、全国の音楽レーベル兼レコードショップの物販などを実施しており、結果として、出演者と来場者の交流が活発に行われるようになりました。こうした交流をきっかけに、その後、新しい音源や書籍の制作が決まったり、山口市の民間のライブハウスでの新しい音楽イベントの開催に繋がった事例があり、ひとつのイベントの枠組みを超えたプラットフォームとしての側面が生まれつつあります。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

本事業を通じて事業運用能力を高めると共に、組織の持続的発展に資する取り組みとなりました。

劇場の創造活動に関わる建物・設備および人材

当館は建築家 磯崎新氏の設計による、展示スペース、ホワイエ、スタジオ A・B・C、市立中央図書館を併設する複合文化施設です。一般社団法人公共建築協会に「地方都市にあって、日頃、芸術文化に触れる機会の少ない、アート、演劇、音楽等パフォーマンスなどの分野において、公演や展示を行うだけでなく、コンピューターや映像を含む先進的な部分において、グローバルな活動の場を提供するなど、地方の公共建築としてよく誘導された作品である。」として、平成 20 年（2008 年）、第 11 回公共建築賞文化施設部門受賞建築物に選出されました。これまで当館では公演のみならず、独自プログラムによる普及啓発活動を継続し、その成果としてのワークショップや教育コンテンツは、キッズデザイン賞や、e-ラーニング大賞を受賞するなど、一定の評価を頂いています。また、一般社団法人日本音響家協会が「使いやすいホール、居心地のよいホール、創造意欲が湧くホール、良い仕事ができるホール」として選定する「優良ホール 100 選」に、中国・四国地方で唯一、選出されるなど高い質を誇っています。

本事業は、こうした設備を活かし、館内最大のスタジオ A の特性を把握しながら、企画・制作を担う事業担当職員（キュレーター）を始め、創造活動に関わる専門人材チーム、YCAM インターラボ職員が、テクニカル・ディレクション、テクニカル・マネジメント、音響技術、映像技術、ネットワーク等の担当者として、公演の準備・制作に取り組みました。事業用に設置した音響機器調整を始めとし、協議を重ねながら創作活動の過程で獲得していく様々な技術（音響、映像、照明、舞台、プログラミング等）により、開館以来 20 年の創作活動で培った技術をさらに向上させ、今後のさらなる事業展開に役立つ経験値を積むことができました。

継続的な事業機能強化の取り組み

類例が少なく、想定できる観客数も見えづらい事業として令和 4 年度にスタートした第 1 回目「Audio Base Camp #1」でしたが、今回の令和 5 年度「Audio Base Camp #2」は 2 回目実施となり、今後、令和 6 年度には「Audio Base Camp #3」の実施を決定しています。来場者は第 1 回目 327 名、第 2 回目 462 名と増加しており、今後一層、連続して開催する価値のある事業だと感じています。

回収したアンケートを集計分析し、また、鑑賞者の年代、居住地域などの基本的な情報に加え、情報を受け取った広報ツールを知ることで、ターゲットに向けた効果的な情報発信に今後、活かしていきます。また、アンケートの自由記載欄記入内容により、関心の高い企画や求める鑑賞体験、また、サービスに対する意見を把握し、より満足度の高い実演芸術体験に繋げていきます。このように、事業の「計画・実行・検証・改善」サイクルを踏まえ、持続的に発展する活動の取り組みとしています。